

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

School Motto (スクール モットー) 「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、社会の変化に臨機応変に対応し、自らの可能性を發揮することができる生徒の育成を目標に、教員・生徒がチーム大冠として、今在る所から未来へ向かって踏み出し、現状を目標に近づけるという意志と意欲をもって物事に取り組む学校をめざす

(1) 基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育むとともにそれらを達成するための環境作りを進める。

(2) 授業・行事・部活動を通し、自ら考え、自ら行動できる主体性及び集中力をより一層高める。

(3) 自己を大切に、他者を尊重する心、地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

そのため、充実した教育課程の中で生徒一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上、夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実、部活動及び生徒会活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実、規範意識や人権尊重意識の向上等を中心に「学校力」を常に全力で向上させることをめざす。

## 2 中期的目標

1 基礎学力の定着をもとに 高い志と意欲をもって、夢や目標、可能性に挑戦する精神を育む。[「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進]

(1) 新学習指導要領をふまえ、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善に取り組む。

ア 公開授業、研究授業、校内研修、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む。

イ 指導教諭を中心に“生徒に身についた力”の評価方法“の検討、”学習支援プログラム“の検討のため組織を立ち上げ、検討会を各学期に行う。(教科横断的な研修・勉強会を行い、検討・定着を進める)

ウ 新カリキュラムへの移行に伴う諸課題を解決しながら、教員が生徒とかかわる時間を確保する。

(2) 生徒が主体的に深く学ぶ授業を増加させ、“主体的・対話的で深い学び”の実現をめざした授業改善への取組みを進める。特に、1人1台の端末の導入に向けて、ICTをより効果的に活用していく。

※「ICTを活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取組みについて推進し、令和5年度に、それぞれの生徒肯定率について、85%、75%をめざす。(H30: 74%・57%、R1: 77%・63%、R2: 78%・66%)

2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実

学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みをホームルーム活動、総合的な探究の時間等を通じて教育活動全体で行い、キャリア教育の充実をめざす。

※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度(生き方や進路を考える教育)」の生徒の肯定率を、令和5年度に向けて、毎年、90%を超えるようめざす。(H30: 88%、R1: 90%、R2: 89%)

(1) 生徒の希望進路実現への取組み

ア 生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。

(同窓生、地域の方等を講師として職業意識を高める進路講演会を行う。スケジュールの早期提供、模試の事前事後指導。面接練習の強化。志望理由書作成の添削など)

※ 年度当初の4年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと、令和5年度に向けて、生徒の希望進路実現率を4年制大学合格率95%、就職斡旋100%を維持し続ける。(H30: 93.9%、R1: 95%、R2: 96.8%)、← 就職斡旋率は3年間100%

(2) 国際理解教育と英語教育の推進

ア 平成26年度より、他の府立高校と合同での国際交流研修を継続。これからも毎年4~5人の参加者を確保し、活性化を図る。

イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。

ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、英検またはGTECの受験を奨励し、令和5年度に、受験者数30人をめざし、合格のための講習を行う。

(H30: 6人、R1: 19人、R2: 15人)

3 チームとして動ける力“自主・自律”の人材育成

(1) 部活動の活性化

クラブ加入の促進並びに教員と生徒の生活の質の向上に取り組む。

ア 1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。

※ 1年生のクラブ加入率・退部率を令和5年度に、それぞれ80%以上、3%以下をめざし、毎年加入率増加、退部率減少に取り組む。(H30: 67.2%・9.4%、R1: 59.4%・7.1%、R2: 77.4%・3.5%)

イ 部活動における練習の効率化を通じて、生徒の時間を上手く使う力の向上を図る。

(2) “規範意識＝基本的生活習慣”の醸成

ア クラブ代表者会議や部活動集会をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。

イ クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを發揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。

※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率をそれぞれ、令和5年度に向けて、80%、85%以上を維持する。

(H30: 78%・83%、R1: 82%・87%、R2: 85%・87%)

※ 生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高める。(・遅刻数3300以下を目標とする。・業間遅刻の検討。数値化し、業間遅刻を減らす。)(H30: 3082人、R1: 3826人、R2: 1983)

ウ 校舎内外や教室の清掃・美化を徹底するとともに、校内外のクリーンキャンペーンの実施、授業環境のユニバーサルデザイン化を進め、学習が深められる環境を整える。

※「清掃の状況」肯定率を生徒教員ともに令和5年度に向けて、それぞれ増加させる。(H30: 58%・34%、R1: 66%・53%、R2: 72%・46%)

エ 校内での挨拶強化のため「こころの再生」にかかる挨拶運動などを行う。

(3) 人権教育と教育相談機能のさらなる充実

ア 人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。

※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率を、令和5年度に向けて、90%を維持する。(H30: 84%、R1: 89%、R2: 93%)

イ 教育相談委員会や特別支援委員会の機能とそれが行う研修とともに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒への合理的配慮を行い、また、自立を支援できる体制をより一層確立する。

カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒支援について一層の徹底を図り学校全体での情報共有を行う。

SC2人体制を維持し、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。

※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」「先生は生徒がいじめや困っていることに真剣に対応」「担任以外にも相談室等で気軽に先生やSCに相談することができる」の生徒の肯定率をいずれも、令和5年度に85%以上をめざす。(H30: 76%・77%・82%、R1: 79%・83%・85%、R2: 76%・83%・84%)

(4) 新型コロナウイルス感染症に係る対応の徹底

ア 長期的な対応が求められている現状を踏まえ、教育活動におけるリスクを低減させるとともに、生徒の学びを保障していく。

イ 感染予防に関し、主体的に行動できるよう促し、新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別等が生じないよう指導していく。

4 求められる魅力ある学校づくり[広報活動と地域連携の充実]

<p>ア 入試改革による影響を的確に把握しながら、“チーム大冠”として学校をあげて、学校説明会・中学校訪問と広報活動の充実を図り、地元中学校との相互連携も深める。</p> <p>イ 学校説明会・中学校訪問については、地元地域を重視しつつ学区撤廃による影響を的確に把握しながら、中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。</p> <p>ウ 学校訪問と学校説明会、クラブ見学会の内容の充実に加え、地元中学校と地元地域の府立学校の連携会議の導入を図る。</p> <p>エ ホームページ、メールマガジン、校内掲示、配付物等を通じて保護者、生徒、中学生に大冠高校の情報と魅力をより効果的かつ継続的に発信し、理解を深める。</p> <p>オ 地域連携の取組みとして、授業、クラブ、生徒会等において、地域と積極的に交流機会を増やし、本校の教育活動についての理解を深めてもらう。</p> <p>5 学校の全体で取り組む教員集団の確立[教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取組み]</p> <p>ア 防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。</p> <p>イ 授業アンケート結果を教科会議において分析、改善策の検討等授業力向上を図る。</p> <p>ウ 新規採用教員・若手教員に対して、定期的に校内研修（管理職・首席・指導教諭を中心として）を行いOJTにつなげ、教員の資質向上を図る。</p> <p>エ 全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、部活動と教職員のバランスを考えながら、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。</p>
---

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と魅力ある授業づくりの推進	<p>(1) 学校組織として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な学びの実現や基礎学力を定着させるための授業改善の取組み</li> <li>公開授業を活用した授業改善の推進</li> </ul>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「しゃべり場」の有効活用 指導教諭と若手教員が主となり、有志教員や生徒も参加した授業研修を行い、わかる授業・充実した授業の推進に繋げる。 生徒の基礎学力を定着させる授業について、教員の意見交換、情報共有を図る場として、活用する。</li> <li>公開授業（4月、6月、11月）を活用し、教員・保護者・生徒の3者からの意見を集約し、授業改善を推進する。</li> <li>授業研修の取組み状況についてホームページに掲載</li> <li>授業アンケート自己及び教科分析シート作成</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度から始まる、観点別学習状況の評価について、教員の共通理解を図る。</li> <li>ICTの活用などで、生徒の授業アンケートの「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業内容に、知識・技能が身に付いたと感じている」の項目のレベルアップを図る。</li> </ul>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修の毎学期実施、年3回以上〔2回〕</li> <li>公開授業(授業研修含む)の年3回以上実施〔2回〕</li> <li>生活基本調査における生徒の「授業への満足度」80%以上〔79%〕</li> <li>生徒向け学校教育自己診断における「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率74%以上〔73%〕</li> <li>生徒向け学校教育自己診断における「授業へのICT活用の機会」の肯定率80%以上〔78%〕</li> </ul>	
2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	<p>(1) 生徒の希望進路実現への取組み</p> <p>(2) 国際理解教育と英語教育の推進</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で連携し、充実を図る。</li> <li>生徒にスケジュール管理や計画、実践する習慣を身に付けさせるよう生徒手帳を有効活用する取組みを行う</li> <li>進路指導部と学年が協同し、将来の生活設計を見据え、1年次より3年間をとおしての計画的な進路講習、キャリア教育の充実を図る。</li> </ul> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のため、国際交流研修の推進として実施していた府立4校合同オーストラリア国際交流研修や近隣の大学や地域への留学生と交流が行えないが、それに代わる国際交流を模索する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英検及びGTEC受験を推進し、必要な生徒には合格のための補講を行う。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断における「将来や進路について考える機会」の肯定率90%以上〔90%〕</li> <li>生徒の希望進路実現率を4年制大学など、進学率95%以上、就職100%を維持〔96.8%、100%〕</li> <li>「集中勉強会」の参加生徒増及び内容の充実 年5回実施、のべ生徒参加人数の増加〔4回〕</li> </ul> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スカイプ、もしくはチャット、メールなど、マジー高校との交流を検討する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内会場受験を実施し、20人以上の英検もしくはGTEC受験者を確保する。〔15人〕</li> </ul>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 チームとして動ける力、自主自律の人材育成</p>	<p>(1) 部活動の活性化</p> <p>(2) 規範意識＝基本的な生活習慣の醸成</p> <p>(3) 人権教育と教育相談機能のさらなる充実</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症に係る対応の徹底</p>	<p>ア・1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。</p> <p>・部活動代表者会議で共通認識を図り、部活動の活性化に努めるとともに、学校生活への好循環につなげ、あわせて、部活動の活性化策（退部率の減小案）及び練習の効率化を検討する。</p> <p>ア・イ</p> <p>・クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。</p> <p>ウ・日々の清掃活動の徹底を図り、学習環境を整え、かつ授業時の環境のユニバーサルデザイン化を行う。</p> <p>・クラブ員・保健委員・美化会員、PTAと共にクリーンキャンペーンを年1回以上行う。</p> <p>・清掃週間を年1回以上行う。</p> <p>エ・朝の生徒による挨拶運動を行う。（クラブ員・生徒会・生活医局中心に校内挨拶運動を行う。）</p> <p>ア・人権教育企画委員会（略して「人企委」）の議論を活性化し、本校として時勢に即した年間計画を策定し、あらゆる教育活動のなかで、生徒の人権感覚を高めることができるよう取り組む。</p> <p>イ・カウンセリングマインドをもって生徒に接し、生徒—教職員相互の信頼関係強化を一層徹底する。そのための情報共有を図る。</p> <p>・SCの相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。</p> <p>ア・教育活動におけるリスクを低減させるとともに、生徒の学びを保障していく。</p> <p>イ・感染予防に関し、主体的に行動できるよう促し、新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別等が生じないよう指導していく。</p>	<p>ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ80%以上、3%以下にする。 〔77.4%、3.5%〕</p> <p>・部活動集会での生徒要望を集約するとともに、部活動の効率化を校内で論議する機会を年2回設ける。</p> <p>ア・イ</p> <p>・生徒・保護者向け学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目のいずれも肯定率85%以上を達成する。〔85%・87%〕</p> <p>・年間遅刻合計回数 2400回以下〔1983回〕</p> <p>ウ・生徒・保護者向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」の肯定率の増加〔72%・46%〕</p> <p>エ・生徒による朝の挨拶運動を年3回以上行う。挨拶週間を年1回以上行う。 〔0回〕</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育充実度」の肯定率93%以上〔93%〕</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制充実度」の肯定率85%以上〔84%〕</p> <p>ア・イ</p> <p>・生徒保健委員会を活用するなど、生徒が主体的に行動できるよう、毎学期、集会や保健だよりなどを通して働きかける。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 求められる魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動と地域連携の充実</p>	<p>ア・イ</p> <p>・地元高槻を中心に枚方方面の中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。</p> <p>ウ・コロナ禍ではあるが、学校説明会、クラブ見学会の内容を工夫するなど、本校の取組みについて、広報と理解を図る。</p> <p>エ・HPの積極的な更新に努め、本校の教育活動を公開することで、地域の信頼に繋げる。</p> <p>オ・コロナ禍ではあるが、授業、クラブ、生徒会等における地域との交流機会についてできることを模索し、本校への理解が深まるよう取り組む。</p>	<p>ア・イ</p> <p>・中学校訪問、のべ60回、塾主催の説明会、3回以上参加。</p> <p>ウ・学校説明会、クラブ見学会の参加者数の増加〔805人〕</p> <p>エ・HPの内容充実と毎日の更新を継続〔ほぼ毎日〕</p> <p>オ・生徒向け学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の肯定率62%以上〔59%〕</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 学校全体で取り組む教員集団の確立</p>	<p>(1) 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取組み</p>	<p>ア・防犯・防災体制を日常化し、危機管理マニュアルの見直しなど、安心・安全な教育環境を整える。</p> <p>イ・授業アンケート結果を教科会議において分析し、改善策の検討等授業力向上を図る。</p> <p>ウ・若手教員に対して管理職・首席・指導教諭中心に対話形式校内研修（しゃべり場など）を継続して行う。</p> <p>エ・全校一斉退庁日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、部活動と教職員のバランスを考えながら、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。</p>	<p>イ・授業アンケートにおける評価の平均値、3.3以上を維持〔3.3〕</p> <p>ウ・しゃべり場研修を年3回以上実施〔2回〕</p> <p>エ・年間800時間以上の超過勤務を有する職員を8人以下にする〔4人〕</p>	